

## 『ピピちゃん』のことば表現―比較研究―

初版本



全集本



初版本と全集本におけるセリフことば内容の異同

○「このこつたら、おなかになにを、いれたんだ！」

○「この子つたら、私のこうらん中にフカのタマゴなんか持ちこんでさッ」

◆ここで、「おなか」と「こうらん【甲羅】」と表現したことばでは、かなりの相異が感ぜられる。というのも、「おなか」という表現は、体内の「おなか」と考えるからだ。だが、実際には口から物を吐き出させているシーンではないからして、セリフと絵とではズレを感じることになる。むしろ、全集本で示した「甲羅」のなかに「鱻の卵なんか」としている方がわかりやすいとしたに違いない。でもまだまだ、実際に絵で表現されたものと言えば、「鱻の赤ちゃん」「海星」「巻き貝」「小石」などであったからだ。「鱻の卵」から孵化した「鱻の赤ちゃん」が正しいからだ。(2011/06/16 萩原記)

- 2 -



○「だれです。ピビにカニなんか、もたせたのは」

◆「なんか」ということば表現は、作家手塚治虫の口癖なのかもしれません。

小学館『日本国語大辞典』第二版に、

なん・か【何―】〔連語〕「なにか(何―)」の変化した語。＊落語・

- 1 -

戒名万金丹（一八九〇（明治二三）〈禽語楼小さん〉「其処に在るものを何んか出して持ってって遣れ」＊黒い眼と茶色の目（一九一四（大正三）〈徳富蘆花〉一・四「なんか、エにアクセントをつけて冴えた声で云って居た」【発音】〈標ア〉「ナ」〈京ア〉（ン）【辞書】文明【表記】【何】文明とあります。《HP「なんか》 <http://www.san-x.co.jp/news/38/index.html>

<http://www.youtube.com/watch?v=swIwIEWD7uo>

<http://www.youtube.com/watch?v=NURwYUEgIk&feature=related>